令和6年度　江戸川区立南葛西中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	人権尊重の精神を基に国際社会に貢献できる日本人の育成 １　学びつづける人 ２　思いやりのある人 ３　心身の健康に努力する人	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	＜学校像＞・生徒の能力を高め資質の向上をめざす学校　・入学させてよかったと保護者、地域から信頼される学校　・教職員も資質の向上を常に心がけ、高め合い組織的に協働できる学校 ＜生徒像＞・人権意識、思いやりの心を持ち、自己を大切にしながら他者も尊重できる生徒　・自らの目標を定め、向上心を持ち、主体的、意欲的に学ぶ生徒　・コミュニケーション能力を高め生活に生かせる生徒　・地域の一員としての自覚をもち、地域を大切にする生徒。　・南中プライドを常に胸にとどめ、規範意識のある生徒 ＜教師像＞・生徒一人一人の理解を深め、生徒のより良い育成に使命感を持って取り組む教師　・組織の一員としての自覚を持ちながら学校としての課題の克服に、意欲的に取り組む教師　・教育公務員としての責任ある言動の履行を厳守し、説明責任が果たせる服務を実践する教師　・日常の授業を大切にして、主体的に学びに向かう授業を行うための研修を励行する教師
前年度までの本校の現状	成果：数学・英語の習熟度別少人数授業を行ったことで、生徒の学習意欲が高まった。学習用タブレット端末を効果的に授業で活用し、生徒の学習意欲を引き出すことができた。支援が必要な生徒対する研修会を実施したことでユニバーサルデザインの視点に立った対応について、理解が深まった。関係諸機関と情報共有できたことで、効果的に支援をすることができた。	課題	・図書館司書と協力し、学校図書館の整備を進め、読書科の充実を図る。 ・ＳＳＷ等と協力して不登校生徒一人一人に寄り添い、登校を促していく。 ・学力向上へ向けた取組を進める。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進 ○学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得 ○家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・習熟度別少人数授業（数・英・理）の実施 ・一人１台端末の授業内での効果的な活用	・２月末実施の到達度テストにおいて、昨年度以上の結果 ・毎時間授業で活用し、生徒の満足度８０％以上	B	C	B	・習熟度別少人数授業が全国学力調査（3年）などで成果となって表れている。 ・一人１台端末はすべての教科で効果的に活用できている。	A	・生徒が意欲的に取り組むように授業改善に取り組んでもらいたい。	B	・指導体制の都合により1年生英語で少人数を解消し単学級で授業を行った。一方数学などは少人数の利点をいかし、個に最適化された授業の実施を行うことができた。	B	・目標を具体的に設定し、取り組んでいる。続けてほしい。	・人材の確保を含めて指導体制をしっかりとしていく。・一人一台端末はモラル教育と並行して活用する。
		・外部委託による放課後補習教室の実施と有効な活用（数・英）	・年間１５０回の実施と対象生徒の学力の１０％向上	A	B	A	・放課後補充教室への参加率も高く、生徒も意欲的に取り組んでいる。	B	・具体的な目標設定のもと取り組んでいる。続けてほしい。	B	・実施回数は規定通りであった。前期に比べて欠席が若干増加した。	B	・基礎的な学力のフォローをしっかりと行ってほしい。また、生徒は前向きに取り組んでほしい。	・前期は参加率も高く、意欲的に取り組んでいた。後期は参加率がやや落ちた。また、2教科ということで集中力が落ちてしまう生徒がいた。
	○読書科の更なる充実	・読書科による活用…各学年５～１０回 ・区立図書館職員による学校図書館整備 ・「読書科」についての情報共有及び深化	・活用率８０％以上 ・年間２２回実施 ・各学期１回以上 ・取組評価肯定回答80%以上	B	B	B	・実施時期を調整しながら活用を進めることができている。 ・司書の協力を得て整備を進めている。 ・情報の共有を進めていく予定である。	B	・デジタル化の時代ではあるが、図書館の良いところを伝え活用するように進めてほしい。	B	・司書の協力を得ながら図書館の整備を進めている。各教科での活用が課題である。	B	・図書館の良いところの発信を委員会等を通じてしていると聞いた。継続して行ってもらいたい。	・委員会活動を通して読書及び図書館の利用の啓発を行った。来年度はバーコード化を控えており、図書館を利用できない期間がある。
体力の向上	○運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善	・体育の授業及び部活動における補強運動の取組 ・ロードレース大会を実施し、生徒の体力向上とスポーツに取り組む達成感や意欲を高める	・新体力テストにおいて、全学年都の平均以上の成果を出す ・ロードレース大会の完走者９０％以上	A	A	B	・授業で補強運動を行っている。 ・現在ロードレース大会の準備を進めている。	A	・スポーツによる達成感を味わわせ、体力向上に努めてほしい。	B	・体育行事を通して目標をもたせながらスポーツに親しむことができた。	A	・ロードレース大会などの体育行事の取組はとても感心した。今後も体力向上に努めてほしい。	・スポーツの楽しさや奥深さを伝えることができた。一方で、新体力テストの結果については改善する必要がある。成果の出る工夫が必要である。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援委員会隔週１回の実施	・情報共有し、全教員で取り組む	A	B	B	・隔週に一回委員会を実施している。情報の共有にとどまらずどのように活用していくかが今後の課題である。	B	・共生社会の実現のために様々な取組を進めてほしい。	B	・隔週に1回委員会を実施し、情報共有を行うことができた。 ・具体策を検討し助言することができた。	B	・多様化する社会の変化に合わせて学校でもユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導、支援を充実させてほしい。	・合理的配慮を考慮しながら支援の形を探ってきた。今後も生徒本人や保護者と相談しながら支援を進めていく。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対策の実施・充実 ○教育相談の強化 ○hypaer-QUの活用 ○エンカレッジルームの活用促進	・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・生徒一人一人に寄り添い、状況把握に努めるとともに不登校対応巡回教員の活用し、SCなど外部の機関につなげる ・学級だけでなく学年や学校で情報共有して活用していく ・校内別室指導支援員を活用し、生徒の復帰を進める。	・不登校生徒に対して、週に１回程度、家庭連絡を行い、必要に応じて家庭訪問を実施する ・SC相談件数の昨年度比増加 ・研修会を実施し、活用を深める。 ・教室復帰2割を目標とする。	B	B	B	・不登校対応巡回教員を活用し、家庭訪問等を行うことができている。 ・SCの相談件数は多い。また、外部機関とつながる生徒の割合も大きくなった。 ・SSWによる研修会を実施した。	B	・不登校生徒への取組をよく行っている。様々な機関とつながって支援を行ってもらいたい。	B	・不登校巡回教員やSSWの活用による家庭訪問や面談を実施することができた。また、バーチャルえどがわにも数名が参加し、生徒の居場所を確保することができた。 ・校内別室は支援員によって生徒に様々な働きかけを行うことができた。	B	・不登校生徒は増加しているようだが丁寧な支援を行っている。様々な機関の紹介など生徒への積極的な提案を行ってほしい。	・生徒一人一人に合った学び、生活に検討、提案した。生徒自身の気持ちに寄り添った対応ができた。一方で、教室復帰という目標に対してはなかなか難しい部分があった。

地域社会に開かれた学校（園）の実現	○自校（園）の取組の積極的な発信 ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・すべての教員が更新できるようスキルアップを図る ・設定した公開期間に学校公開を実施する。	・１週間に１回は更新し、情報発信を行う。 ・年４回実施する。	B	B	B	・各教員がホームページを更新している。更新の頻度が上がっている。 ・予定通り学校公開を行っている。	A	・学校公開では生徒の成長が見られてよかった。	A	・ホームページをほぼ毎日更新している。学校の情報の発信をすることができた。学校公開の際には授業をはじめ生徒の様々な姿を保護者及び地域の方に見せることができた。	A	・学校の様子が分かってとてもよい。ペーパレス化の推進にも良いと思う。	・学校公開により直接見ていただく機会とHPを通しての情報の公開などを行うことができた。一方で個人情報の保護を遵守し公開を進めていく。
	○学校関係者評価の充実 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会で地域から見た学校の意見をまとめ、教育活動の充実・改善に取り組む。	・学校に対する満足度を８０％以上とする	B	B	B	・予定通り委員会を行っている。	B	・委員会の開催やアンケートなど、目標に従って具体的な取組を実施している。	A	・評議委員会の方々にも、学校応援団の活動に参加していただいた。特にふれあい面接では、直接生徒に面接練習をしていただいた。	A	・ふれあい面接では、生徒と直接話すことができた。南中生の立派な姿を見られた。	・学校評議員さんをはじめ、地域との結びつきを強めながらご意見をうかがうことができた。
特色ある教育の展開	○「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・定時退勤日を設定 ・ＳＳＳ、副校長補佐を活用し、職員の業務軽減を図る ・部活動指導員、外部指導員の活用促進	・月に１回定時退勤日の実施 ・教員の満足度８０％以上	B	B	B	・外部人材の活用により勤務時間の短縮にはなっているが、更なるサポートが必要である。	A	・学校でやるべきことを進めていると思う。	B	・進路事務の時期となるとどうしても勤務時間が長くなってしまうことがあった。	B	・心身の健康に努めてほしい。	・様々な行事の精選や業務の効率化などを工夫しながら行うことができた。一方でICT機器の管理などの業務が入っている。
	○持続可能な社会の担い手を育むため、教科等横断的な視点に立った実践の推進	・ＳＤＧｓへの取組を中心とした、研修とその実践 ・グリーン活動ボランティアの充実	・生徒への取組を各学期に１回実施 ・生徒の取組を８０％以上とする	C	B	B	・節電や残菜減に取り組んだ ・緑のカーテンとしてつる植物をグリーン活動ボランティアで育てている。	A	・目標の掲示物が校内にあり、生徒が意識を持って取り組むようにしていると思う。	B	・節電では昨年度よりも消費量を減らすことができた。 ・生徒の意識も高く、環境について考える機会となった。	B	・学校応援団としても協力できることは協力する。	・様々な視点での取組を行うことができた。来年度はペーパーレス化をさらに進めるなど多くのことに取り組んでいきたい。